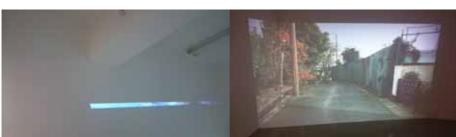
現実を知る。唐詩意 展 2018/08/27-09/01 steps gallery Criticism by MIYATA Tetsuya Vol.212







唐詩薏(トウ・ショク) 初個展がステップスとなった。 シヨクは 1992 年台湾出身、2015 年中国美術大学(光州) デザイン学科卒業、2016年3月、東洋言語学院卒業。2016 年 4 月、嵯峨美術大学大学院修士課程造形研究科造形絵画 分野入学。2018年3月、同修士課程修了。修了作品が大 学院賞を受賞。2018年10月 東京芸術大学大学院研究生。 中国美術大学とは、日本で言えば東京芸術大学である。し かしシヨクはファッションデザインで卒業した。東洋言語 学院ではどのコースに進学すべきか悩んだが、私は現代美 術を薦め、特に先鋭的な嵯峨美術大学に入学した。嵯峨美 術大学大学院修士課程1年目中間講評会では平面を、1年 修了制作展ではアニメーションを、2年中間講評会では実 写作品を、修了制作展では本作を出品した。

シヨクの作品の主題は時空の超克であり、中国の神話の 《胡蝶の夢》を想起すれば分かりやすい。荘子の「無為自 然」がよく表れている。「無為自然」は「逍遥遊」という、 目的意識に縛られない自由な境地のことであり、その境地

に達すれば自然と融和して自由な生き方ができると荘子 は説く。シヨクはこの発想を現代においてアインシュタイ ン、ホーキングらの現代物理学も含めて研究している。 ステップスギャラリーオーナー吉岡まさみのブログでの 作品分析が凄まじく、私が書く必要が必要なくなっている。 (http://stepsgallery.cocolog-nifty.com/blog/2018/08/post-d797 .html)。修了制作展の会場ではスクエアな空間に展示した ので、また見る感覚が異なった。この作品に映し出される 三つの映像は凡庸でありながらも、凡庸であるからこそ 我々は普段生活していて見ない、見えない、感じている空 間の雰囲気が明らかになる。つまり私達は生きながらも死 んでいて、死にながらも生きながらえ、現実と思い込んで いる時空と別の場所にいることが理解される。難しい話で はない、ぼーっとしている時と集中している時に見える、 感じるものが違うという、誰にでもある経験なのである。 シヨクは映像を撮りたい訳ではない。いずれ絵画に戻るで あろう。シヨクの芸術に、これからの未来が託されている。



